

学会長メッセージ No.5

「江口先生と安酸先生との対話」

Merry Christmas!!

雨上がりのクリスマスの朝です。東京タワーも美しいです。

先日、基調講演をお願いしている江口重幸先生と、教育セミナーをお願いしている安酸史子先生とケアについてお話しする機会がありました。2月ごろ、内容はお伝えできると思います。

江口先生が訳されたクラインマンの『病の語り』（誠信書房）は修士時代に読みました。

「病は体験である」という冒頭の一文にすっかり魅せられてしまいました。

また、「ケアをする人の過程とともにケアされる人の過程がある」という言葉にも、ケアの相互の関係性やケアするということのむずかしさを考えてきたものです。

医療人類学とはすごい命名だなと思いつつ、江口先生、安酸先生とお話しして視野が広がりました。

一足先に先生方のお話を聴くことができ、私にとって、大切な時間になりました。

学会では、江口先生、安酸先生のご講演を皆さんとお聞きしたいと思います。とても楽しみです。



2017年12月25日 東 めぐみ